



NPO法人霧が丘ぷらっとほーむは地域に住む様々なコミュニティの人がつながり、「楽しみ」「小さな困った事を助け合い」「学び合い」地域みんなで解決できる仕組みをつくることで、人の温かさが感じられる幸せな地域づくりをコンセプトに活動をしています。

根岸さんは、育休中、子どもと公園に行ったときにインド出身の人たちと、日本人との交流がないのを見て、インドの人達と交流したい、井戸端会議がしたいと思いました。また、友人が一人で育児をしていて、大変な日々を送っているのを知りました。小さなヘルプでも頼める環境にしたいという思いから、「困ったらいつでも言って、私も助けてもらいたい」とヘルプを出しやすいように一言かけるようにしました。小さなたすけあいが子どものクラスのママ同士で広がりました。クラスだけでなく、地域で広げられないか？と思うようになったのが始まりだったそうです。



←明るいテラス席もある
kiricafeの入り口で

共同代表
左が根岸あすみさん
右が武蔵幸恵さん



当初根岸さんは、お花屋さんや着付けをしてくれる人の協力を得て、デポールの集会室で花と家族の写真館を不定期開催していましたが、その場でつながりが途切れてしまうことに課題を感じていました。いつでも人が集える拠点が欲しいと思っていたところ、URで店舗が空いていることを知り、ケアプラザで情報交流していた地域のシニア世代のチームと一緒にヨコハマ市民まち普請事業にチャレンジすることにしました。2次審査に通るには地域への説明など大変でしたが、近隣の学校を通して子ども達に名前を募集し、子ども達の参加を作ることになったり、地域の森の整備をしている団体から間伐材の提供があったりなど、地域を巻き込んで「ぷらっとkiricafe」のオープンに至りました。ボランティアさんは、定年退職したシニア層が多いのですが、インド出身の人、中学生、困難を抱えた20歳、子ども食堂をやりたいかったという人など様々。ボランティアさんたちの中で自然と曜日ごとにチームが生まれ、それぞれのこだわりメニューを提供するようになりました。ランチ代は年金生活の方でも週2回来てもらう価格設定として議論をして700円、ドリンク200円としました。クリーンメイトというお掃除のチームもあり、お料理しない人もそれぞれが得意分野を発揮しています。

NPO法人 霧が丘ぷらっとほーむ
ぷらっとkiricafe
横浜市緑区霧が丘3-26-1 205
電話番号：045-489-9405
<https://www.kirigaokaplatform.com>



←取材した金曜日は
「和食はお任せ！シェフの
気まぐれランチ」の日
3色の押しずしてした。

取材した日の厨房スタッフ
→
写っていないけど、もうお一人、洗い物をして
いた方がいました。



また、学びあいもこのカフェの特徴の一つで、インド出身の方に子ども達が英語を教えてもらう代わりに、日本語を教える講座などを設けています。その他のイベントのアイデアも、普段の会話から出てくることが多いそうです。友人から、子ども食堂ではなく、子どもがひとりで家にいても、お米を炊いて食事ができるようになる食育をしたいという話を聞いた数日後、自身の目の病気で、今後家のご飯を子どもたちが作れるようにしたいというママ友から相談を受け、子どもの料理のイベントの実現につなげました。

訪問した日のkiricafeでは、真ん中の大きなテーブルに年齢・性別とわず、ギターに合わせて歌をうたっている人たちがいて、壁側の席ではコーヒーを飲んでいる人たちもいて、いろんな人がこの場で思い思いに過ごせる場となっていることが分かりました。また、カフェの中には子ども達が遊べる手作りのキッズスペースが設置されていました。同じ部屋にいても大人とは別の世界で過ごせる、そんな子どものひそひそワクワク感がもてる楽しそうなスペースでした。



思い思いに過ごす人たち。
後ろの壁際には手作りのキッズスペースが。

カフェオープンから1年半で充実した毎日を過ごせる場になっているのは、地域とつながって、たくさんの人が関わり、参加者の思いやアイデアを活かしてきたからだと思いました。誰かの支援のためだけではなく、自分たちも楽しんで自分の居場所となっているから、たくさんの方が集いどんどん発展していったんだと思います。

今後の活動に期待をしています。(きそうけいこ)

発行：2024年9月20日
発行者：(特非)全員参加による地域未来創造機構(略称：未来機構)
〒222-0033横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F
Tel:045-534-7131 Fax:045-534-7151 E-mail:minnano@miraikikou.org

みんなの未来 きこう

第10号

発行：特定非営利活動法人全員参加による地域未来創造機構
発行責任：希代監

地域のたすけあい・市民活動の継続、発展のために

つながりをつくる

2024年6月8日

つながりをつくるワークショップ報告

前年度から開催してきているワークショップの3回目を迎え、この日は中間支援組織とは何かというテーマから始めました。「同じ目的を持った人たちが活動をより良くしていくための支援。」「一人ひとりの市民の何か始めたい、参加したいという小さな思いをつなぐ。個人の社会参加のきっかけづくり。」などの意見が出ました。

その後「事業の持続性」「運営を担うメンバーの育

昨年から、情報共有・相互交流のためのリアル参加の「場」+交流WEBサイトをつくりたいと、交流会やワークショップを開催し、意見交換してきました。

成」「地域での市民団体のネットワーク形成」の3グループにわかれ、議論しました。「完全ボランティアだけでは疲れてしまう」という意見や、ファンドレイジングに関しての情報交換。「団体を維持していくために中核を担う人をどう育てるか」「一人の困り事には様々な内容があり、一つの団体では支えきれない。地域での活動がつながっていることで、地域の解決力は高まる。」といった話し合いがされた。

参加した人たちがそれぞれが持っている資源とアイデアをつないでいきます。

---今年度、2つの「場」を始めます---

01

2か月に1度「アソシエーション交流会」を開催します。

・2024年9月26日(木)14:00~16:30
横浜市開港記念会館9号室

9月に予定しているワークショップ

その1：メンバー交流サイトで出た悩みから話し合い、アイデア、意見をもらい深めます。

その2：当日会場に来たメンバーで話し合いたいことを出し合います。

02

メンバー交流サイト「みんなのみらい」立ち上げました。

登録メンバー内で自由に書き込み、共有できる掲示板交流サイトです。

「交流会」からメンバー交流サイトみんなのみらい、そしてまた「交流会」へと、意見交換・情報交換の「場」を広げます。

アソシエーション活動をしている人たちは、普段は仕事をしていて、休みの日にはボランティア活動をしている人たちが大勢います。そういった人たちは、直接出会いの場である、アソシエーション交流会への参加は難しく、悩みを共有するチャンスが少なくなっています。活動について誰かに相談したり、ちょっとした愚痴をこぼしたり、共有する場として、ちょっと覗けるwebサイトがあれば・・・そんな声をききました。

また、交流会で同じ悩みを持つ人を見つけたけれど、もう少し深く話をしたい、多角的な意見を聞きたいといったご意見もありました。そんな声にこたえて、メンバー交流サイト「みんなのみらい」を立ち上げました。おおぜいの参加で意見交換を進めていきたいと思います。

メンバー
登録は
こちらから



今後の開催予定

11/13(水) (かながわ県民センター1501)

25年1/25(土) (会場未定)



2023年度アソシエーション交流会の様子

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F

TEL:045-534-7131

FAX:045-534-7151

E-MAIL:minnano@miraikikou.org

URL:<https://www.minnanomiraikikou.org>

(特非)全員参加による
地域未来創造機構
(略称：未来機構)



NPO法人全員参加による
地域未来創造機構
〒222-0033横浜市港北区新横浜2-8-4
オルタナティブ生活館3F

「居場所」等を拠点とする活動や支えあい・たすけあい活動への共感と参加を高めるための4回連続講座として3年目を迎えた市民基礎講座は多くの受講者を迎え今年度も3会場で開催しました。地域会場ごとに個性的な講師によるお話、フィールドワーク、参加者同士のワークショップなどが展開されました。

相模原会場

5/30・6/13・7/3・7/17 ユニコムプラザさがみはら・みんなのいばしょポプケ・子育て広場ぶらんこ

相模原会場では16名の申し込みがあり、14名の参加がありました。受講動機は、地域の中で子どものことが気になっている、居場所づくりをすすめたい、自分の住んでいる地域で子育て支援の仕事をしてみたいなど、それぞれの想いを持ってみなさん参加されていました。

相模原会場では、子どもに関連する活動を行っている団体を見学し講話を聞きました。地域の中にある課題を解決するために、実際に活動をしている方たちの声は非常に説得力があり、力強さを感じました。



みんなの居場所ポプケの
武田さん(左)、佐藤さん(右)

同じような感覚を持った人たちとの情報共有や意見交換できてそれぞれの思いを感じ取れた。参考にもなりとてもためになりました。(M子さん)



現状がわかることができ、どんな支援が必要なのか？行政の対応とのむずかしさなど勉強になりました！共感できる仲間づくりからスタートしようかと思います。(I子さん)



居場所を作るぞ！なんて今は言えませんが、それでも話を聞いたり、共感しあったりしながら個人単位でも目の前の人を大切にしていこうと改めて決意出来た日でした。(R子さん)

受講者のフィードバックには、毎回多くの気づきや参考になったキーワードなどが記載され、最終回の「今後に向けての一言」では、思い思いの言葉を表現してもらい、共有することができました。

市民講座を神奈川の地域をエリア別に分けて開催したことで、会場への参加がしやすく、また、地域のメンバーどうしが出会うことができ、より地域密着の新しいつながりをつくることができました。今後に向けて具体的な活動に発展できるよう、サポートをすすめていきたいと思います。

さがみ生活クラブ理事長 森洋子

湘南会場

6/11・6/17・7/9・7/22 鎌倉芸術館・Miraieの古民家・みんなの居場所み～なの家

フィールドワーク報告

湘南会場のフィールドワークは、『一般社団法人Miraie(ミライエ)』へ見学に行きました。まず、驚くのはその広さです。山林がある広大な敷地に、古民家と蔵が佇んでいます。暑い日、手を洗った井戸の水は冷たくて気持ちよかったです！四季を彩る樹々の花、果実、自然のなかで出会える虫や動物、そして、ヤギも烏骨鶏もいます。畑やアスレチックフィールドも有し、自然のなかで「自分のやりたい」を実現する『居場所』が、横須賀の街中にあります。



居場所担当の池井さん、施設整備担当の榎本さんの出迎えを受け、建物内の見学の後、「学童クラブぬくもり」施設長でもある池井さんから、居場所サロンの立ち上げと運営についてお話を伺いました。Miraieは、平日は高学年を対象とした学童「ぬくもり」と不登校児を対象とした居場所「ミライのたいよう」を、休日は地域に向けてイベント・ワークショップを行っています。また、シェアスペース事業はプレイパークや映画の撮影など、好評とのことでした。

池井さんは、公設の学童保育では「もっと自由にすごしたい」「低学年がちょっと鬱陶しい」「人が多いのが苦手」などの理由から高学年の退所が多いことから『高学年』×『少人数』の学童保育「ぬくもり」を開所しました。

「ミライのたいよう」は不登校児が増加傾向にあるなか、その受け皿が全然足りないことと、安心して過ごせる社会や、同年代の子どもたちとつながることのできる居場所として設立されました。自然と触れ合い自分のペースで好きなことが自由にできる場で、子どもたちは様々な体験ができます。社会と関わりを持ち続けながら自分の道を切り開く土台を作ることができたら、と居場所への想いと実践をお聴きしました。

湘南会場は、「みんなの居場所・れいんぼ～かふえ」鈴木理恵さん・「一般社団法人リトルハブホーム」岩崎愛さんの講座を経てMiraie見学、まとめはファシリテーター木下青子さんの実践の場でもある「みんなの居場所よこすか み～なの家」で行いました。皆さん、それぞれの経験のなかで課題意識を持ち、少しでも解決したいとの思いから活動されています。「思いがあれば出会いがある」どなたからもあった言葉です。湘南会場の参加者も4日間の学びから勇気をもらえたのでしょう、「私は～をまず始めます」と発表しあって講座を終えました。

NPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会 吉田美佐子

横浜会場

7/23・7/31・8/6・8/22 かながわ県民センター・富岡サロングジュピのえんがわ

今年の横浜会場には、自らの子育てや活動の経験を生かして地域のために何かやりたいと思っている人やすでに始めていて今後の活動のヒントを得たいという人など、意欲的な18名の参加がありました。



ハレの日ケの日の鈴木さん(左)
はぐくむにーずの高橋さん(右)

講座では、講師自らの体験に引き付けて、現在の地域や社会の状況を考える講座のあと、様々な居場所の事例を学びました。公共施設等を使って学習支援と子ども自身がつくれるようにという思いからいっしょに食事づくりをする「アソシエーションてらこや・こどもごはん」、「お互いさま」の地域をつくりたい

と住み開きから始めて、今は空き家を活用している「子ども食堂ハレの日ケの日」、1歳から101歳の多様でゆるやかな活動の拠点となり、地域の様々な団体、専門職との連携のハブの役割をとなっている「街カフェ大倉山ミエル」。それぞれの講師からは、最初から100%でなくてもとにかくやってみるという、ある意味肩に力が入りすぎていないお話があり、何かやってみたいがどこから始めたらいいか不安に思っている受講者の背中を押したことは間違いありません。



フィールドワークでは、駄菓子屋コーナーがある「ジュピのえんがわ」(横浜市金沢区)にお邪魔し、空き家の活用から現在に至るこれまでの経緯をお聞きしました。利用料300円でおいしいコーヒーと昔懐かしい駄菓子をいただきながら、質問は途切れることなく続いていました。

グループワークはファシリテーターをNPO法人街カフェ大倉山ミエル理事長の鈴木智香子さんにお願しました。グループで受講者の思いを出しあったり、情報提供しあったりしたことが、今後に向けた具体的なイメージづくりにつながったという感想がありました。酷暑の時期でしたが、ほとんど欠席がなく、毎回講座の後で別れを惜しんで参加者同士話し合う様子が印象的でした。最終回では「あつという間の講座でした。数年後今回参加した皆さんが何をやっているか、報告会がしたい」という発言もあり、充実した講座となりました。

組合員からの紹介や横浜市の市民活動支援センター等に配架依頼したことで、未来機構の構成団体に所属していない3名の方の参加がありました。未来機構の講座が必要とする人に少しずつ届くようになってきたことを実感しました。

受講した皆さんから、地域で小さな一歩を踏み出したという報告が来るのが楽しみです。

神奈川ワーカーズコレクティブ連合会 専務理事井上浩子

